

圏論・代数幾何学的な数理構造からなる 「黄帝内経」と中医薬学の本質に関する一考

甲斐広文
熊本大学 名誉教授

2000年以上前に、哲学および数学が、「ヒトとは何か」、「幸福とは何か」などといった「生き方」を定義していた。一方、数十年前から、医療や科学の有用性を今風の科学的エビデンス（「見える世界」）に基づいて語られるようになった。果たして、医療や科学は、「目に見える世界」だけを信じていて良いのか。マスメディアを含め、医療の世界は今、科学を「目に見える世界」だけで語るうとしているのではないだろうか。それが当たり前の世界になると、大切な本質的な科学を見失ってしまうのではないだろうか。

「黄帝内経」が編集された2000年以上前は、今のような数値や分子で解析できる「目に見える世界」ではなかったが、その時代の哲学者、数学者は、「目に見えない世界」をどう「見える化」するかを重要な研究テーマにしていた。そして、当時の科学的な考察は、2000年以上も経った現在でもなお、中医薬学を始め、多くの科学の本質的な原理として活用されている。

本講演では、1年半前に立ち上げた学際的研究グループが、「黄帝内経」の謎解きに挑み、「黄帝内経」に美しい数学的構造（数学的証拠）が存在することを圏論と代数幾何学の観点から明らかにし、「中医薬の世界の素晴らしさ」と「未病医療の本質」についての一考を紹介する。

これからの科学は、自分達に都合が良い理論や考え方だけで説明するのではなく、「黄帝内経」に学び、自然と調和する最適解は何かを永遠に追求し続けていくことが大切であろう。

略歴

昭和 58 年 3 月

熊本大学薬学部 卒業

昭和 60 年 3 月

大学院薬学研究科修士課程 修了

昭和 60 年 4 月～昭和 62 年 3 月

(株) エーザイ筑波研究所 研究員

昭和 62 年

熊本大学薬学部 助手

(平成 3 年 7 月～平成 5 年 4 月)

カリフォルニア大学サンフランシスコ校

平成 9 年

熊本大学薬学部 助教授

平成 13 年 4 月

熊本大学薬学部 教授、

平成 27 年 4 月～令和 3 年 3 月

熊本大学 薬学部長、

令和 3 年 4 月～令和 5 年 3 月

熊本大学 副学長、

令和 5 年 4 月～

熊本大学 名誉教授、客員教授

薬学博士

日本薬理学会理事

国際アルポート症候群財団 研究顧問

熊本大学発認定ベンチャー (株) C-HAS プラス 研究担当取締役 (CSO)

創薬ベンチャー (株) GALTS Pharma 代表取締役 (CEO)